

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	司法研究科
大項目	8 学習環境
中項目	
小項目	8.0.1 施設・設備の確保・整備
要素	授業等の教育の実施や学習に必要な施設・設備が適切に確保・整備されていること。
小項目	8.0.2 図書・情報源の整備
要素	教育及び学習の上で必要な図書・情報源及びその利用環境が整備されていること。
小項目	8.0.3 学習支援体制
要素	学生が学習に集中できるように支援する体制が備わっていること。
小項目	8.0.4 学生へのアドバイス
要素	学生が学習方法や進路選択等につき適切にアドバイスを受けられる体制があり、有効に機能していること。
小項目	8.0.5 カウンセリング体制
要素	学生が適切に精神面のカウンセリングを受けることのできる体制があり、有効に機能していること。
小項目	8.0.6 国際性の涵養
要素	国際性の涵養に配慮した取り組みがなされていること。
小項目	8.0.7 クラス人数
要素	1つの授業を同時に受講する学生数が適切な数であること。
小項目	8.0.8 入学者数
要素	入学者数が入学定員に対してバランスを失っていないこと。
小項目	8.0.9 在籍者数
要素	在籍者数が収容定員に対してバランスを失っていないこと。

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 在学生に対するキャレル割り当て率を100%とする	→キャレル割り当て率	C	A	A	A	A
2. 学生用の自主ゼミ室を現状の2倍に増室する	→自主ゼミ室の増室数	D	D	D	D	D
3. 資料室の蔵書数を倍増(12000冊)させる	→蔵書数	D	D	D	D	D
4. 学習支援に関する学生の要望に的確、迅速に対応して学習支援体制の一層の充実を図るために、学生との意見交換会を年間で4回開催する。	→クラス連絡会との意見交換会の回数、教員と学生の参加者数	B	B	A	A	A
5. 学習方法や進路など学生の多様な相談に対し適切な個別指導を実現させるために、1年次から3年次までの持ち上がり方式の担任制を構築し、明示する。	→担任制度の決定、公表	B	A	A	A	A
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013

## 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 本研究科執行部を中心に取り組んだ。大学・法人を粘り強く説得し、設備の拡充に理解を求めた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2011年3月に、従来自習室や共同研究室として利用していた部屋(3部屋)をロースクールのキャレルに転用することが認められた。これにより席数が159席から263席へと一気に増設され、在学生全員に専用キャレルを与えることが可能になった。更には、修了後に研修員として勉学を継続している者にもキャレルを与えることが可能となった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か キャレルについては十分に整備され、当初の目標は達成されている。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標2	D	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 本研究科執行部を中心に検討した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 自主ゼミ室の増設には至っていないが、学生数の減少に伴い、自主ゼミ室の不足は解消している。日常的には自主ゼミ室の利用状況は低く、空室の場合が多い。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 利用状況に注視しつつ、現行の施設で運用する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	D	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 図書委員会と執行部を中心に検討した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 資料室の蔵書数は収蔵可能冊数を既に超えており、目標達成のためには資料室を増床しなければならぬが、実現していない。なお、学生・教員とも、学習・研究に必要な書籍が不足しているという不満は挙がっておらず、この数値目標の妥当性についてはあらためて検討する必要がある。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 資料室の増床または移転を実行するとしても、現行の施設状況を考えると、学生にとって利便性が低くなる可能性がある。本目標達成のために発生する費用やユーザー視点の利便性等も十分に考慮した上で、本目標の必要性について再検討する必要があると考えている。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 本研究科執行部を中心に取り組んだ。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か クラス連絡会を発足させ、年4回ほど学生の代表者と意見交換する機会を設けている。学生からの改善要望を直接聞ける機会だけでなく、本研究科として学生に伝えたいことを発信する絶好の機会にもなっている。ここでの議論をきっかけに制度変更されたこともあり、研究科の運営に非常に役立っている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後もクラス連絡会を継続させ、学生からの要望に耳を傾け、また本研究科として学生に伝える機会としたい。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆

目標5	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学生関係委員会を中心に取り組んだ。従来より実施していた1年交代のクラス担任制度を拡充させ、入学から修了まで教員が一貫して面倒をみる担当教員制度に変更した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 継続性を重視し、一人の学生を責任をもって指導する体制となったことで、学生にとっても安心感が生まれるものとなった。担当教員が一年に一度、学習の進捗状況や学生生活の悩みなどを聞くための面談を実施しているほか、進級不可となった場合も面談し、スムーズに再起を図れるようにしている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 本研究科は教員と学生との垣根が低く、担当教員に限らず教員と日常的にコミュニケーションが取れる環境にある。そのせいか、担当教員とのコミュニケーションの方が少なくなるケースもあり、担当教員と日常的に相談しあえる環境にしていきたい。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆